



準決勝【大将】 藤山 (パナソニック・ES 本社) コーメー 松野 (西日本シティ銀行・本店)

▲大将戦、松野が見事なコテを打ち込み先制。これで決勝進出も間近と思われたが、ここから藤山が本領発揮。コテで一本返すや、最後は見事なメンを追加 (写真)。逆転勝利を挙げる

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック (ES 本社)		木下	湯浅	藤山	1
		×	×	コメ	2
西日本シティ銀行 (本店)		宮本	吉村	松野	0



準々決勝【大将】 興梠 (全日本武道具) ◎コー 中野 (パナソニック・ES 横浜)

チーム	順	先	中	大	得点
全日本武道具		田山	川野	興梠	1
		×	×	◎コ	2
パナソニック (ES 横浜)		佐々木	阪本	中野	0

▲前2人が引き分けに終わったあとの大将戦。全日本女子選手権大会2位の戦績を持つ興梠が地力を発揮。見事なコテ (写真) で先制した後、決めたのはまたしてもコテ。実績どおりの強さを見せてチームを準決勝へ導いた



チーム	順	先	中	大	得点
西日本シティ銀行 (本店)		宮本	吉村	松野	1
		◎メ	×	×	2
朝日新聞姫路販売 (A)		今村	橋本	成原	0

準々決勝【中堅】 吉村 (西日本シティ銀行・本店) × 橋本 (朝日新聞姫路販売・A)

▲先鋒の二本勝ちを受けた吉村。橋本が何とか攻め返そうとすると伸びやかなメンを繰り出し、引き分けに押さえる (写真は攻防)。一勝を守った西日本シティ銀行が3位入賞を決めた



▲決勝戦、JR東日本リテールネットの里井が懸命に一勝を狙うが、序盤から惜しい技を出し続けた藤山が見事なコテを奪取 (写真)。この一打で優勝が決まった



準決勝【先鋒】 門馬 (JR東日本リテールネット・本社) ◎ー 田山 (全日本武道具)

▲コテを先取した門馬はその後も惜しい諸手ツキを放つなど気迫の攻め。対する田山もメンで旗を上げる場面もあったが決めきれず。門馬の一勝により、JRリテールネットが勝利した (写真は攻防)



準々決勝【大将】 里井 (JR東日本リテールネット・本社) ◎ー 奥村 (富士ゼロックス東京・本社)

▲追いつきたい奥村は惜しいコテで応援を沸かせるなど見せ場を作る。しかし、冷静に攻め返す里井がコテからメンへと渡るとこれが一本に (写真)。奥村も必死の反撃を図るが試合終了の合図が響く



優勝◆パナソニック (ES 本社)

木下春菜 (24歳)、湯浅夏基 (24歳)、藤山枝理佳 (25歳)、中山友祐子 (33歳)。監督=酒井順也



決勝【先鋒】
木下 (パナソニック・ES 本社) ◎ー 門馬 (JR東日本リテールネット・本社)
▲準決勝では決勝進出を決める「勝」を挙げた門馬。ここでもチームに勢いをもちたところだったが、木下が開始早々にひきメンで「本先取」挽回した。門馬が惜しいコテで沸かせる場面もあったが、好機を見出した木下は再びひきメンを決める (写真)。優勝へ向けて大きな勝を得る



最優秀選手賞はパナソニック (ES 本社) の大将・藤山選手が受賞。この日はチームの大黒柱として各試合で存在感を見せていた

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック (ES 本社)		木下	湯浅	藤山	2
		◎メ	◎	◎	4
JR 東日本リテールネット (本社)		門馬	寺地	里井	1
		×	×	×	0

パナソニック (ES 本社) が 返り咲き

第17回全日本実業団女子 高壮年剣道大会

平成26年3月8日 (土)
東京武道館
主催◆全日本実業団剣道連盟
撮影◆樽川智亜希

2度目の優勝に沸くパナソニック・酒井順也監督は、「主将の藤山を中心に『優勝を奪還しよう』とチーム一丸となれたのが勝因。決勝戦は先鋒が力を見せてくれましたが、実はそういう展開が今日は決勝までなかった。木下はジャパンの強化選手にも選ばれていてここ最近本人も自信をつけている選手。最後の最後でやってくれました」と喜びを語る。

3位には西日本シティ銀行 (本店)、そして全日本武道具という九州勢の2チームが入賞。どちらもチームとしてはもちろんのこと、九州勢としても初の入賞となる快挙であった。

決勝戦の相手はこれが初のベスト4進出となるJR東日本リテールネット (本社)。筑波大学出身の里井、国士舘大学出身の門馬、今春関東学院大学を卒業した寺地を加えた若きチームは、過去3回の優勝を誇る富士ゼロックス東京本社から伝統チームを撃破。勢いを駆ってパナソニック戦に臨んだが、ここでは先鋒戦で先手を取られ、ペースを取り返せぬまま敗れることとなった。

昨年99チームがエントリーしたこの女子実業団日本一を決定する大会だが、今年はさらに7チームが増加。合計106チームが集う盛大な大会となった。

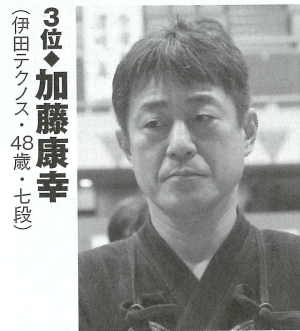
熾烈な戦いを制したのは第15回大会 (平成24年) の覇者・パナソニック (ES 本社) である。昨年は惜しくも3位に泣いた同チームが今年は見事に王座に返り咲いた。



優勝◆立見 顕久
(三井住友海上、41歳・七段)



2位◆大元 順
(パナソニックエレクトロニクス・48歳・七段)



3位◆加藤 康幸
(伊田テクノス・48歳・七段)



3位◆久徳 博文
(大阪ガス・59歳・七段)



【決勝】
立見三井住友海上⑧メー 大元(パナソニック)

いきなりメンに跳んだ立見。気合も伸びやかに発して連覇への意欲は充分にいったところ。その後も攻め手をゆるめぬ立見が中間からのひきメンで一本先制。大元も立見の出ばなにい反応を示したが、最後は立見の跳び込みメンが炸裂写真



【準決勝】
大元(パナソニック)⑧メー 久徳(大阪ガス)

立ち上がり、両者はじっくりと機会を探り合う。と、狙い澄ましたかのように放った大元のメンが見事な一本となった。二本目となり、反撃に出る久徳がわずかにコテを出したところ、これを見逃さなかった大元が受けさずメンに打ち取った写真

立見 三井住友海上 連覇の快挙

高壮年六段以上の部



【準々決勝】
立見(三井住友海上)メー 大西(福岡トヨベツ)

▲4年前の覇者宮本(三井住友海上)を下した大西が奮闘。立見の猛攻にも冷静に対処し、勝負は延長戦へと入る。最後は立見のメンが決まったが(写真)、大西の剣さばきも光った



【準決勝】
立見(三井住友海上)⑧コー 加藤(伊田テクノス)

▲ともに優勝経験のある2人が激突。上段に構える加藤に対して臆することなく攻めた立見。鋭いコテで一本奪うと(写真)、その後も上段に押されぬ気迫でコテを追加した



4回戦【大将】
中野(パナソニック・ES横浜)⑧ー 藤倉(ヘアハグ・本店)

▲先鋒、中堅を引き分け、勝負は大将戦に。相手がよく見えている様子の中野が藤倉が技を打ち終えたところをメンでとらえる(写真左が中野)。その後、藤倉の猛攻も光ったが反撃の有効打は得られなかった



4回戦【中堅】
青木(中京総合警備)⑧メーコ 小澤(NTT東日本・東京)

▲中京総合警備は先鋒諸富の勝利でリードを奪う。青木も幸先良くコテで先制したが(写真)、小澤も意地を見せてコテを返す。このまま引き分けかと思われたが小澤の打ち終わりに跳んだ青木のメンが一本となった



準々決勝【中堅】
湯浅(パナソニック・ES本社)⑧ー 青木(中京総合警備)

▲先鋒戦を引き分け、勝負の流れが見えぬまま中堅戦へ。青木が元氣よく攻めるが、惜しい出ゴテで機会をつかんだ湯浅が、その後、見事なメンを打ち込んだ(写真はメンの直前)

チーム	順	先	中	大	得点
パナソニック(ES本社)	木下	湯浅	藤山		2
		⑧	⑧		2
中京総合警備	諸富	青木	岡田		0
					0



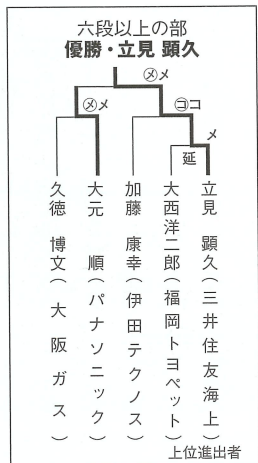
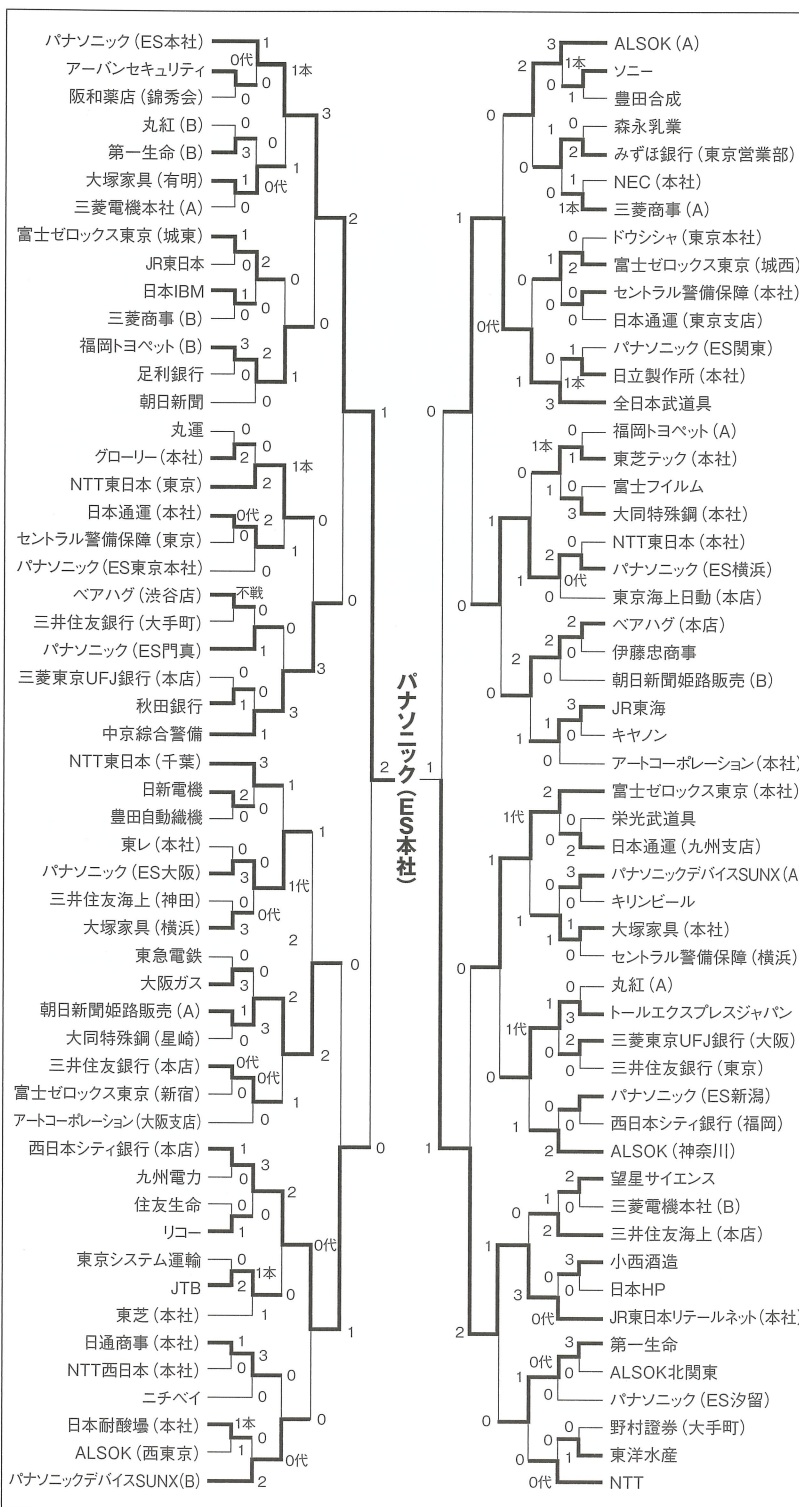
2位◆JR東日本リテールネット(本社)
門馬晶子(23歳)、寺地はるか(22歳)、里井茜(23歳)、上野瞳(24歳)。監督＝朝日一博

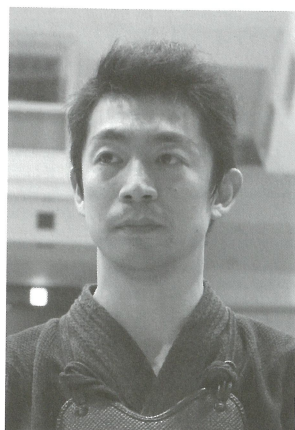


3位◆西日本シティ銀行(本店)
宮本麻由弥(23歳)、吉村紀美子(23歳)、松野陽子(29歳)。監督＝古賀裕章



3位◆全日本武道具
田山佳奈恵(19歳)、川野美穂(31歳)、興相舞(32歳)、田山美沙希(22歳)。監督＝川辺尚彦

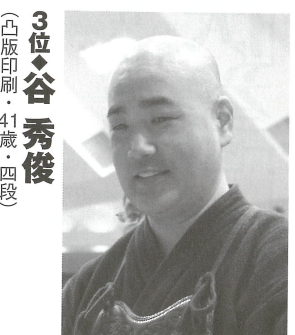




(JR東日本リテールネット・40歳・五段)



2位◆**齊木津之**
(キリンビール・58歳・三段)



3位◆谷秀俊
(凸版印刷・41歳・四段)



3位◆三木勤
(富士ゼロックス・46歳・五段)



【準々決勝】

齊木(キンビール)コー 三木(富士ゼロックス)

▲過去に優勝経験のある三木は好調な様子で体さばきにキレが見られた。延長戦、三木が良いタイミングでメンに跳んだが、これは一本にはならず。直後、斉木の放ったコテが見事に決まる(写真)

初陣・香川

(JR東日本リテールネット)

が制す

高壮年 五段 以下
の部

高壮年
五段
以下
の部



【準々決勝】

三木(富士ゼロックス)⑩コー 浅川(ニチベイ)

▲三木の強さが際立った。素速い攻め込みに浅川が反応、メンに出てきたところを見事にドウに切った(写真)。その後は抜群の機会でコテをとらえ、二本勝ちで準決勝へと進んだ



【決勝】

香川 (JR東日本リテールネット) ⊕ コー 齊木 (麒麟ビール)

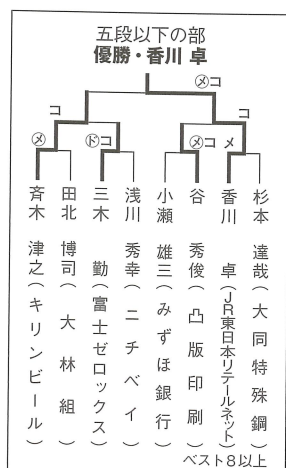
▼スピードに優る香川が斉木を翻弄。メンの連打で攻め立てた後、相手が出てくるところをメンで打ち取った(写真)。その後も厳しい攻めを見せた香川は見事なコテを追加した。



【準決勝】

香川 (JR東日本リテールネット) コー 谷 (凸版印刷)

▲香川が素速いメンで攻めるが、谷はこれをよく見て余す。緊張感あふれる戦いは延長戦へと突入。谷の思い切りの良い攻めを見切った香川が渾身のコテを打ち込んだ(写真)



で栄冠を勝ち取った。

この決勝戦は女子の部決勝の直後に行なわれたこともあり、「女子も決勝まで行つたので励みになりました」と決戦前の意気込みを語つた香川。「2試合目くらいが体力的にも厳しかったのですが、それを超えると体が昔を思い出してくれました」と戦いを振り返つた。

六段以上の部と同じルールで行なわれるこの部門は初出場の香川（ＪＲ東日本リテールネット）が優勝を果たした。

こちらのエントリー選手数は２８４人と昨年と同じで人数であったが、やはり上位へと勝ち進むにつれて試合間隔も短くなり、面を外すひまもなく連戦を強いられるケースなどが見られた。

ＪＲ東日本リテールネットの主力選手として活躍してきた香川は、４０歳と最年少の出場者となる。今大会はまさに「若さ」を感じさせるスピードの速さで並み居る強豪を次々と打ち倒した。

J R 東日本リールネットの主力選手として活躍してきた香川は、40歳と最年少の出場者となる。今大会はまさに「若さ」を感じさせるスピードの速さで並み居る強豪を次々と打ち倒した。

決勝では、過去に3位入賞経験（第12回大会・平成21年）のあるベテラン・斉木（キリンビール）と対戦。先輩剣士を相手に臆することなく戦った香川が二本勝ちで栄冠を勝ち取った。